

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・4月の売上は前年比で220%、前々年比で541%、2020年比で1141%、コロナ禍前の2019年比で117%となっている。観光地ということもあって、コロナ禍前の水準を上回るようになっており、景気は良くなっている。
	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・3か月前の時点で来客数が増加傾向にあり、前年比プラス67%となっていた。4月は増加幅が更に拡大し、前年比プラス179%となっていることから、景気は良くなっている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が少しずつ回復しており、それに伴って売上も以前の水準に戻りつつある。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行が報道されていることで、客の気持ちにも変化がみられるようになり、景気も順調に回復しつつある。ただ、3年にも及ぶ巣籠り生活によって染み付いた習慣を変えるのは至難の業であり、コロナ禍前の状態に戻ることは簡単ではない。コロナ禍前よりも低調な状況はまだ続くと思われるため、事業者の苦悩も続くことになる。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・4月に入ってから日ごとに景況が上向いている。特に週末の売上の回復が目立っている。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症に関連した制限の緩和に伴って、国内外の観光客が増加しており、来客数、買上客数共に増加傾向にある。
	○	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・物価高の影響はあるが、販促企画に対する客の反応が良く、販売量や来客数の増加に加えて、客単価も上昇していることから、景気はやや良くなってきている。
	○	スーパー（企画担当）	それ以外	・入国制限の緩和により、観光客が増加している。観光地に立地している店舗では、コロナ禍前のように客が増加している。
	○	スーパー（従業員）	お客様の様子	・コンビニエンスストアの弁当類や飲食店のメニューが値上がりしているため、内食需要が再び増加している。特に総菜や冷凍食品など、すぐに食べることのできる商材の売上が伸びている。
	○	スーパー（従業員）	お客様の様子	・飲食店や観光関連の状況が変わりつつある。全体的には景気が上向き傾向にある。
	○	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・客の動向が活発になってきたことが来客数の回復に直結している。ゴールデンウィーク明けから少しずつ回復も期待できそうだ。ただ、卵不足などの懸念材料も一部あるため、まだ気を抜けない状況にある。
	○	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症に関連した制限の緩和により、消費者の行動が通常の状態に戻りつつある。ただ、物価が上がっているため、消費がそれほど伸びているわけではない。
	○	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・コスト上昇に伴う価格転嫁が進んでいることから、景気はやや良くなっている。
	○	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・経済活動が動き出していることで、スーツの買換えが進んでいる。インナーのシャツや靴についても、これまでの買い控えから、必要分をそろえようという衣替え効果がみられている。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・前年比の動きをみると、販売量が堅調に増加している。
○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3か月前と比較すると、販売台数が目標を達成できるほどに回復している。納期が長期化していることで客が早めに動く傾向もみられる。	
○	住関連専門店（役員）	単価の動き	・日用品の値上げの影響もあって、来客数は前年よりも減少しているが、客単価が上昇している。気温が高めで推移するなど、例年よりも春の訪れが早いことから、ガーデン関連の商材が前倒しで好調に売れている。	

○	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・例年は桜の開花がゴールデンウィークと重なるため、ゴールデンウィークが繁忙期となるが、今年は開花が2週間以上早まったことから、ゴールデンウィーク前にもかかわらず観光客を中心に来客数が増加している。ゴールデンウィーク期間中もコロナ禍で旅行を自粛していたことへの反動で観光客の増加が期待できるため、例年よりも繁忙期間が長くなることが見込める。
○	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・3月の国内線航空機利用者数は、ビジネスや帰省などの生活需要、春休みの観光需要などでコロナ禍前の95%程度まで回復している。物価高騰などのマイナス要素はあるものの、景気は上向きで推移している。
○	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響による最近3年間の旅行自粛の反動もあって、徐々に団体旅行の相談が増えている。
○	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・来客数が増えており、3か月前と比べると2.5倍まで増加している。売上もコロナ禍前の水準に迫りつつある。
○	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・新年度に入ったこともあり、3か月前と比較すると、これまでコロナ禍で控えられていた企業や組織の団体旅行の見積依頼、実施が増加傾向にある。ただ、海外旅行については、世界的な物価上昇、円安、燃油サーチャージ高騰の影響もあって、まだ回復していない。
○	タクシー運転手	販売量の動き	・日中、夜間共にコロナ禍前の2019年比で80%程度まで売上が回復している。ただ、顕著な乗務員不足が続いているなど、産業存続に向けて危機的な状況もみられる。
○	通信会社(企画担当)	来客数の動き	・今までは通信サービスを他社から切り換える客に対して、特に手厚い支援を行っていたが、支援額の見直しを行い、純粹な新規客への支援のウエイトを増やしたところ、想定以上の客からの引き合いがあった。
○	美容室(経営者)	販売量の動き	・コロナ禍前の売上にほぼ回復するなど、ここ数年の動きとは明らかに違う雰囲気があることから、景気はやや良くなっている。
○	その他サービスの動向を把握できる者[フェリー](従業員)	来客数の動き	・少しずつではあるが観光客が増加しており、コロナ禍前の水準に近づきつつある。
□	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行を控えて、外食ニーズが増えている。また、商材が値上がりしていることで、生鮮食品の動きが悪くなっている。これらのことから、来客数の伸びが鈍くなっている。
□	スーパー(店長)	販売量の動き	・旅行需要回復の影響が大きく、衣料品や日用品の売場ではトラベル関連商材を中心に売上が伸びている。一方、コロナ禍で大きく売上を伸ばしたアウトドア関連やテレワーク関連商材の売上はコロナ禍前の水準まで低下している。
□	スーパー(店長)	競争相手の様子	・競合店も苦勞しているなど、厳しい状況にある。
□	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・来客数が増加したことで飲料や菓子の動きが良くなっているが、弁当などの主食、デザートなどは値上げの影響もあって、販売量がやや低調に推移している。
□	家電量販店(店員)	来客数の動き	・4月前半は新入学関連の需要が多少みられた。4月後半は気温が低下したこともあって客足が鈍っている。
□	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・1月及び2月は新車の受注状況が上向いていたが、3～4月にかけては低調であった。
□	その他専門店[ガソリンスタンド](経営者)	販売量の動き	・石油製品価格が高止まりしているため、客の節約志向が依然として強い。
□	その他専門店[造花](店長)	お客様の様子	・5月の繁忙期を前に事前購入が増えることを見込んでいたが、利益は見込みを1割程度下回って推移している。

□	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・観光客の来店が微増していることもあって来客数が増えており、それに伴って売上も増えている。ただ、客単価が低下しており、例年の50%前後となりそうだ。顧客の顔ぶれも変わりつつある。食材は今まで値上げをしてこなかった小規模事業者で値上げの動きがみられたり、大手企業で品目を減らす動きがみられるなど、大きく変化している。中心部の飲食店や市内のホテルでは調理師の求人を出す動きもみられる。
□	観光型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症を気にする雰囲気が徐々に薄れている。インバウンドの利用や客からの問合せも増えている。ただ、先々に向けての動きがある一方で、4月の動きは今一つであり、景気が好転しているとまでは言い難い。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・運送収入はコロナ禍前の8割程度の水準で足踏みをしている。これは客のライフスタイルが固定したことによるものとみられる。今後、コロナ禍前の水準に回復することも考えにくい。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・観光客の利用はある程度みられるが、期待ほどではない。地元客の利用状況は余り変わっていない。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・ここに来て新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着きつつあることで人の動きが徐々に回復している。売上もコロナ禍前の6～7割の水準に回復している。これからも様々な観点から、客の動きなどを注視したい。
□	美容室(経営者)	販売量の動き	・4月の売上は前月よりも良かったが、前年よりは良くなかった。1月以降の流れをみても、景気が上向いているとまではいえない。
□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを来訪する客の購買意欲は相変わらず高く、購入予定の客がほとんどである。客の所得水準も以前と比べると高くなっている。
▲	商店街(代表者)	お客様の様子	・客の様子をみると、景気が良くなるとは考えていないようであり、買物の動きも鈍い。鳥インフルエンザが相次いで発生したこともマイナスである。
▲	商店街(代表者)	来客数の動き	・地元百貨店閉店による負の影響が継続している。百貨店に隣接している区域の物販店主によると来街者が3割近く減少しているとの見立てであった。また、他地域からの旅行者についても期待以下の数であり、当区域を買物などで歩行している客はまばらである。ホテルの宿泊客についても、近くのコンビニエンスストアのレジ袋を携行してホテルに戻る姿が散見されるなど、土産品を購入している様子はみられない。
▲	一般小売店(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着くとともに、外出する人が増えている。インドアで楽しむ商材を扱っている当店にとっては厳しい流れになっている。
▲	コンビニ(店長)	お客様の様子	・主食系の商材が売れなくなっている。これまで弁当やレンジ麺、冷やし麺を買っていた客が、おにぎりやパン、カップ麺を買うようになっている。主食系の価格が600円台に値上がりし、昼食代としては高過ぎるのだと考えられる。
▲	衣料品専門店 (エリア担当)	来客数の動き	・来客数の減少が顕著であり、それに比例するように買上点数も伸び悩んでいる。特に大型店の不振が大きい。客の行動範囲が広がり、競合店に一定数の客が流れていること、食品の値上げにより、衣料品の買い控えが起きていることなどが要因とみられる。
▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・当店における新車の販売量は目標を達成できているなど、安定して推移しているが、他店の様子を見ると、目標の50%程度の販売量にとどまっている店舗もあり、2月と比べると景気は明らかに落ち込んでいる。
▲	その他専門店 [医薬品](経営者)	単価の動き	・値上がりラッシュ前の3月に商材がよく売れたため、4月は非常に厳しい結果となった。3月のあおりを受けている。
▲	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・全国旅行支援の割引率が低下していることもあって、客の動向がやや落ち込んでいる。

	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・今年は雪解けが早く、4月になってから暖かい日が多かったため、3月までの雪のある時期と比べてタクシーの利用が減っている。特に電話での注文が少なく、売上が3月よりも20%ほど減っている。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価全体が上がっていることから、景気はやや悪くなっている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・ウッドショックの影響が落ち着きつつあり、木材合板の価格が下がり始めているものの、建材などは引き続き高値のまま推移している。業者によっては逆ざやになっているところもみられるなど、厳しい状況が続いている。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・全国旅行支援の割引率が20%に引き下げられてから、本州からの予約客が目に見えて減少している。地方の観光地の景気が回復する前に制度が縮小、終了する流れとなっており、景況感は悪化している。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年度からの繰越し工事と4月着工の新規工事の受注で新年度前半の工事量を確保できている。技術職員の現場配置がフル稼働の状態での新年度がスタートしている。
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・本州向けの生乳輸送は相変わらず低調であり、新年度に入っても同じような傾向が続いている。紙パルプ製品は消費停滞の影響で消費地在庫が増えている。飲料品は価格改定の影響もあって伸びていないが、需要期に向けて飲料容器に動きが出始めている。ゴールデンウィークから夏にかけて暑くなれば、荷動きが良くなると期待している。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・物価高の影響はあるものの、道外観光客やインバウンドの回復に伴って、食料品製造業、小売業、卸売業、運輸業、ホテル・旅館業などの観光関連業種の売上が持ち直している。ヒアリングした企業の6割が物価上昇分の50%以上を価格転嫁できたと回答していることもプラス要素である。
	○	その他サービス業 [建設機械レンタル]（総務担当）	受注量や販売量の動き	・4月に入り、売上が前年から10%以上の伸びを示している。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年であれば4月は売上の増える時期だが、今年はそれほどでもない。5月以降に上向くことを期待している。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上が前年比95%となっており、景気はやや悪い状況にある。
	□	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・依然として新築住宅着工棟数が前年を下回る状況が続いている。こん包材、塗料、外注品などの値上げも止まらないため、景気は厳しいまま変わらない。
	□	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・受注量に大きな変動がみられない。
	□	通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・引き続き取引量が順調に推移していることに加えて、ここ最近では販売単価も改善傾向にあることから、景況感のやや良い状況が継続している。
	□	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症に関連した制限が緩和されていることで、外国人観光客やこれまで旅行を控えていた国内客の動きが活発化しているが、これは時間と金に余裕のある一部の人であり、多くの方は4月の食料品などの値上げ、6月に控えている電気料金引上げなどの影響で、依然として厳しい生活環境にある。景気回復が感じられるようになるまで、まだしばらく時間が掛かることになる。
	□	その他非製造業 [鋼材卸売]（従業員）	受注量や販売量の動き	・年度替わりなどの影響で市場の動きが鈍くなっている面も一部でみられるものの、大きな落ち込みにはなっていない。
	▲	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建設工事費の高騰に伴い、民間工事がストップし始めている。

	▲	司法書士	取引先の様子	・取引先の建設業では、材料費や燃料費の高騰が続いていることから、販売価格も徐々に上がっている。また、流通の遅延により、建物の完成まで時間が掛かるようになっており、需要はあるものの、供給が間に合わない傾向がみられる。
	×	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・4月の販売量は前年比マイナス32%であった。3か月前の1月の販売量は前年比マイナス23%であったことから、景気は悪くなっている。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人依頼は3か月前よりも増加している。営業・管理系の求人は堅調に推移しており、新型コロナウイルス感染症の収束に伴って、イベント系や飲食店からの求人も増加している。さらに、百貨店からは外商の拡大を目指した人材依頼もみられ始めている。建設業界からも雪解けに伴う技術者の依頼が増えている。
	○	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・4月に入り、中途採用市場における求人広告が増えている。これまで潜在していた企業の求人意欲が具体的に現れ始めている。
	○	職業安定所(職 員)	求職者数の動き	・3月の新規求職者数は前年から0.4%の増加と4か月連続の増加となったが、有効求職者数は8か月連続で減少している。また、新規求人数は前年から22.1%の減少と2か月連続で減少したが、引き続き高水準で推移している。業況が堅調な企業を中心に引き続き求人数が好調に推移している。
	○	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・当地における3月の新規求人数は3か月前と比べて18.0%増加している。
	□	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・季節要因を除くと、各業種の動向などは3か月前とほとんど変わっていない。
	□	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・例年と比べて、求人広告の掲載申込件数が僅かに減っている状況が続いている。
	□	職業安定所(職 員)	それ以外	・相次ぐ商材の値上げや光熱費の高止まり、上がらない賃金など、厳しい状況が続いている。春闘での全国的な賃上げ状況が道内にも反映されるようになれば、景気が上向く可能性がある。
	□	学校[大学] (就職担当)	求人数の動き	・2024年春の新卒採用に向けて、2～3月にかけては企業の採用担当者の動きが活発であったが、4月に入ってから動きが低調になっている。新型コロナウイルス感染症に関連した制限は緩和されている一方で、企業側の慎重姿勢がみられることは、道内経済予測の表れとも考えられることから、今後の景気回復は大きくは期待できない。
	▲	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・年度が替わり、採用費用を見直す企業が多くみられる。建設や医療介護などでは、採用の動きがやや鈍化している。宿泊やタクシー、飲食店などは引き続き堅調に推移しているものの、物価高の影響が出始めており、これまでの勢いがみられない。
	×	—	—	—